

# 既存施設は まだ寿命ではありません！

私たちの提案「白馬山麓清掃センターの焼却施設を、継続して使いましょう。そして寿命が来た時に、広域の計画の半分以下の費用で作らしましょう。」をごらんいただけただけでしょうか？

私たちは、10月1日の勉強会で2巡目説明会資料の問題点について学びました。その内容を紹介し、一緒に考えていただければと思います。

広域連合の  
説明

一般的な焼却施設の耐用年数を15年～20年。既存施設は耐用年数を経過し、年々維持管理費が大幅に増大し、また今後大規模な改修が必要となる可能性もある。だから新施設は必要だ。



## 「耐用年数を経過した = 寿命が来た」はトリック！

「耐用年数を経過」と聞けば、誰でも「寿命が来た」と思いますが、本当にそうでしょうか？

白馬山麓清掃センターの運転開始からは確かに23年になりますが、平成12年に9億円余を投じて行なったダイオキシン類対策の説明について、意図的に矮小化(わいしょうか)しています。



## 8年前に新品同様！(ダイオキシン類対策)



平成12年9月のダイオキシン類の恒久対策は、**9億500万円を投じ**、受け入れ設備を除く全てで**新品同様**になりました。また、平成14年2月には『20年施設重要整備計画書』を作成し、**平成32年までの綿密な整備計画**があります。

このことは、平成16年11月、広域連合議会での相澤議員の「H32年までの使用」との発言、平成17年2月の連合議会ごみ処理広域化特別委員会での北沢議員の「平成32年～以上の使用」との発言記録によっても裏付けられるものです。白馬山麓清掃センターの施設は、今後受け入れ設備の改修は予測されますが、平成32年まで使用できる施設であることは明白です。

## 新施設の規模→稼働率を隠したトリック

広域連合の  
説明

新ごみ処理施設の施設規模は、ごみの減量化や人口減少を見込み48t/日と、**現在の処理能力である99t/日**(大町市69t、白馬山麓環境施設組合30t)から**大きく削減した規模**としています。

これを聞いて、「減量が相当進む計画はすごい！」と思った人は多いと思います。平成17年度の大町プラントの稼働率は**34.32%**(23.68t/日)、白馬山麓の稼働率は**46.93%**(14.08t/日)であり、この合計は37.76t/日と、ほぼ新施設の規模と同じです。

ごみの減量化も人口減も見込んでいない、ずさんなものということになります。

## それぞれで処理した場合の数字の怪？

広域連合の  
説明

既存施設は耐用年数を経過し、年々維持管理費が大幅に増大し、今後大幅な改修が必要になる。この際、新施設を建設した方が得策だ。

広域連合は、広域化した場合と、それぞれで建設した場合の費用負担の比較を示しましたが、白馬山麓の施設の場合22t/日で算出し、まだ10年は使えるのに、その間の減量化の進行を見込まない費用比較はかなり恣意的です。

仮に50%のごみ減量化を達成したら、建設費も人件費を含む維持管理費もほぼ半減するというのが私たちの試算です。

【農民美術】自由画教育の先駆者・山本鼎(かなえ)の提唱で、大正7年頃上田地方で発祥。北欧で作られていた木端(こっぱ)人形等の素朴な民芸品を気候、風土の似ている上田で作っていた。現在、白馬・大町地域の作家に受け継がれている。

インタビュー形式でご意見を頂きました。

**Q:「白馬の木彫り」の素朴な響きには、何が込められているのでしょうか？**

**A:** およそ50年前に修得した、上田での“農民美術”(注参照)が私の源流です。貧しい農民が、副業としての木彫りで生活を支え地域の文化にも関わる。今こそ“農民美術”という言い方はしませんが、多くの作家が自らの流儀を追求し、大町を含めたこの地域に「木彫り」の文化が根付いてきたことは嬉しいことです。木彫りには大変な時間と労力が必要ですが、それだけに、その“ぬくもり”は温かい。人間なら、誰もが親しみを感じる。「白馬の木彫り」は、いわば農民からのメッセージなのですね。

## 「2箇所建設」が論議された 経過を質問

**Q: 巡目の住民説明会では、どんな疑問が残りましたか？**

**A:** 「広域で2箇所建設も可能ではないのか？」と尋ねました。副村長はそのことをよく認識していたようです。平成17年に、『循環型社会形成推進交付金制度』になり、大型化を目指してきた考え方は軌道修正されたのですね。

その頃の議論は、村民には身近で大切なものだったのに、村民レベルまで話がおりてこなかった。これは大きな問題です。もし、その時点で問われていれば、多くの方は「今の施設をもっと長く使おう」と思ったはずですよ。

## 白馬を愛する人たちの 夢を壊したくない!

**Q: 過半数署名・推進署名と、村を二分するような様相ですが...**

**A:** 工芸館を訪れてくれた都会の人が、手紙と一緒に署名とカンパを送ってくれました。村外の方の署名が1万5千名ですか？子孫に負の遺産を残したくないと考えるとともに、都会の人達が白馬という観光地をどれほど愛しているのか、これも大切な判断材料なのですね。推進賛成の人達は、そのことを考えているのでしょうかね？

推進署名には、白紙撤回署名した立場から当然応じませんでしたよ。

## 「飯森」は最適地など いえる場所ではない

**Q: 飯森がよいか悪いかだけの問題でしょうか？**

**A:** まず、飯森がふさわしくない場所であることは言うまでもありません。ですから、広域連合は白紙撤回のタイミングを誤ったと思います。

その飯森で「イエス」「ノー」を問う前に、“まちづくり”の論議を深めたいものですね。少しでも、前もって一致するものを見つけておかなければ、どっちになっても尾を引くことになると思うからです。

それに、もし「飯森に決まった」となれば、大町市民も黙ってはいないと思いますよ。長期的に見た場合の経済性や、現実問題としてのごみの搬送など、広域連合の思惑と市民の意識とのギャップが表面化しそうです。事実、「白馬村長には、首を横に振ってもらいたい」ともらす大町市民もいます。

## 白黒がつく住民投票がふさわしい

**Q: 民意の把握の方法で、アンケートか住民投票かが論議されていますが...**

**A:** 行政は、引き際を誤ったのですから、早い時期に結論を出す流れは止められないでしょう。ただ、村長は住民投票には乗り気ではないようです。アンケートとなら、曖昧な結果からでも都合の良い結論を出せるからではないでしょうか。

もし都合の良い結論付けをした時は、なぜ引き際を誤ったのか？なぜそこまで新施設建設に執念を燃やすのか？との疑問は、心ある村民ならみんな考えるでしょうね。

私は、白黒がつく住民投票がいいと思いますが、万一「イエス」が多かったら、太田村長には続投してもらって、ことの顛末をきっちり見届けてもらいたいと思っていますがね。

## 500年後の村を見据えて

**Q: この村の発展には、何が必要でしょうか？**

**A:** 今回のことを通じて、議員や議会のあり方に大きな疑問を感じました。行政のチェック機関としての立場を忘れ、地区推薦に安住する議員にはこの村を託せない。来春に迫った議員選挙では、大きな決断が迫られていますね。

あと、北欧などを巡って感じたことですが、500年かけて作られたまちが、訪れた多くのお客さんの心を癒し感動を与えている。“本物の観光地”として賑わっているのですね。

私たちは、類いまれなこの自然美を、ただ食い潰すだけではなく、夢と時間と労力をかけて、ここ白馬にしかない“まち作り”をしていかなければいけないと思うのです。農民美術でも発祥は大正7年で、まだ100年にもなっていない。何百年もしないと育たない樹木のことを考えたら、「500年後の村」を見据えるような大きなスケールで、この白馬村を育て・発展させていきたいものですね。手間隙かけないと見えてこないものの価値を、私は何よりも大切にしたいと思います。

お忙しい中、ありがとうございました!(ごみ連協広報部)

皆さんの「声」をお聞かせ下さいね!  
Fax: 0261-72-7465  
e-mail: info@hakuba-kaeru.com



**白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会ニュース**  
発行：白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会(会長：宮田温巴)  
白馬村北城八方口5897-1(たきみや) <事務局> TEL: 0261-72-2527 FAX: 0261-72-7465

**皆様の一層のご支援をお願いいたします!**  
カンパ振込先 ●八十二銀行白馬支店/普通口座:137464  
名義:ハクバゴミモンダイカンパ ●ゆうちょ銀行/口座記号番号  
00520-2-83674/名義:白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会